校内研修計画

山梨市立笛川小学校

１　学校課題

昨年度からは，一人一台端末の活用を継続しながら，「プログラミング的思考の育成」を研究のテーマとし，学習会や一人一実践を行う中で，研究を進めてきた。プログラミング教育は，言語能力等と並んで，学習指導要領に位置付けられた学習の基盤となる資質・能力の一つである情報活用能力の育成の一翼を担う。児童がプログラミングを体験しながら，時代を越えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」を身に付けるための学習活動を，計画的に実施することとした。全ての学校や学年で確実に実施することが求められていることもあり，研究一年目として理論研究を中心に取り組んできた。

低学年ブロックでは，パソコンを使わずに意図した考え方などを，カードや紙面などを使って思考し，流れ 図に表すなどして概念を学ぶアンプラグド・プログラミングを中心に実践，研究を進めた。一方，高学年ブロックにおいては，実際にICT機器を活用してパソコンを操作し，画面上で意図した動きを実現するプログラミングを中心に研究を行った。直感的に見て分かる図や文字が記入され，色分けされた命令のブロック等を組み合わせるプログラミング体験を通じて，思考の育成を図る実践，研究を行ってきた。

本校の児童は，様々なものに 興味・関心をもち，自主的に活動する様子が見られる。一方，教科等の授業においては，児童がその発表に至るまでの過程や手順の説明ができなかったり，発表後に教師や友達から質問された際に，発表した内容についての理由や根拠を答えられずに黙ったりしてしまうことが多かった。しかし，昨年度からの研究の推進により，順序立てて説明をしたり，思考を整理しながら分かりやすく説明できる児童が増えてきた。しかし，学習の中ではできていても，実生活の中での活用が十分とは言えない現状があると考える。

２　研究主題

「歯・口の健康づくりのために，主体的に考え，行動する児童の育成」

～プログラミング的思考の活用を通して～

３　主題設定の理由

昨年度まで研究を進め育成してきた「プログラミング的思考」は，様々な分野で活用することができる。昨年度は，「プログラミング年間指導計画」を基本とし，各学年教科を中心とした学習の中で育成に努めてきた。児童も，順序立てて考えていくことで思考が整理され，理解力も高まった。そこで，今年度は，研究指定を受けた「歯・口の健康づくり」について，昨年度までに育んできた「プログラミング的思考」を活用することで，主体的に考え行動する児童の育成につながり，効果的に筋道を立てて考え，より深い学びへと展開していけるのではないかと考え，主題と副題を設定した。

４　研究仮説

自分自身に目を向けて歯や口の健康作りについて考え，プログラミング的思考を活用することで, 自分の考えを順序立てて表現しようとする意欲を高め,より主体的に自分に必要な行動をする児童を育成することができるだろう。

５　研究の具体的内容と方法

　（１）研究の内容

　　　・健康な体（歯・口）についての学習会を開き，授業研究の推進を図る。

・プログラミング教育のねらいであるプログラミング的思考の育成とは，どのようなことかを

更に理解を深める。

・自校の現状や課題を把握する。

・授業実践（学級活動，各教科、総合的な学習など）を行い，その結果を分析し，本研究の成

果と課題を明らかにし，今後の指導に生かす。

　（２）研究の方法

・講師を招聘しての研修会（歯・口の健康づくり，プログラミング的思考）

・アンケートや検診結果を分析・集計

・研究授業（歯・口の健康づくりについて）

・一人一実践（プログラミング的思考）

６　校内研　年間計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 内　容 |
| １ | 4 | 7 | 金 | 研究の方向性　　研究主題・研究内容・研究計画等について① |
| ２ | 4 | 11 | 火 | 研究主題・研究内容・研究計画等について② |
| ３ | 4 | 26 | 水 | 研究主題・研究内容・研究計画等の決定報告  エピペン講習会 |
| ４ | 5 |  | 木 | 歯・口の健康づくりについての学習会（学校医を招いて） |
| 5 | 5 | 29 | 月 | 歯・口の健康づくりについての学習会（指導主事要請） |
| 6 | 6 | 21 | 水 | プログラミング的思考力についての学習会（指導主事要請） |
| ７ | 8 | 23 | 水 | 特別支援に関わる研修会（ワークショップ）  SOSの出し方研修会  教育課程還流報告  学校課題の洗い出しと研究の方向性の確認（ブロック）  研究授業指導案検討①（ブロック） |
| ８ | 9 | 13 | 水 | 研究授業指導案検討②（ブロック） |
| ９ | 10 | 18 | 水 | 低学年研究授業指導案検討③（全体） |
| 1０ | 10 | 25 | 水 | 高学年研究授業指導案検討④（全体） |
| 1１ | 11 | 1 | 水 | 研究授業指導案検討⑤（ブロック） |
| 1２ | 11 | 15 | 水 | 研究授業（　3年　相澤拓実教諭　）（指導主事要請） |
| 1３ | 11 | 29 | 水 | 研究授業（　4年　名取夏海教諭　）（指導主事要請） |
| 1４ | 1 | 31 | 水 | 一人一実践報告（ブロック研究）成果と課題について |
| 1５ | 2 | 21 | 水 | 研究のまとめ |

研究主任　　笠井　裕弥